

中部部会の歩みと展望

安村 仁志

“狐はたくさんを知っているが、
ハリネズミはでかいことを一つだけ知っている”
(ギリシアの詩人アルキロコス)

福音主義神学会が発足して40年経った。東部-西部の二部会制が12年ほど続いた時点で、神の導きのもとにわれわれ中部部会が産声を上げた。以来28年部会は守られてきた。感謝をもって、設立の経緯と28年の歩みを振り返りつつ、神学会の今後について課題を探っていききたい。

I. 中部部会の発足

中部部会は1982年7月13日(火)に誕生した。東部、西部の二部会制であったところから、協力・援助を受けながら、西部からの独立の形であった。設立総会議事録には、議長から以下の経過報告がなされたことが記されている。「約1年前から、西部部会理事長鍋谷先生及び橋本龍三先生のご労により中部部会独立の準備が進められ、本年2月16日の中部地区懇談会において設立準備委員会を設置、西部部会及び全国理事会においても承認され、本日に至った」。祝辞に続き、東部からの祝電(「チュウブカイハッカイヲシュクシンリノモトニタツキカイノゴハッテンヲイノリマス トウブカイ」)が披露されている。さらに議事において西部部会への感謝決議がなされている。以上の通り、中部部

会は特に西部部会の援助と、東部部会の支援のもとに発足したのである。

1982年2月16日(火)午後3時より大韓キリスト名古屋教会を会場に、設立準備の中部地区神学講演会が開かれた。西部部会の鍋谷克爾師が来名、「聖書解釈の一考察—詩篇8篇をめぐって」と題する講演がなされた(午後3時～5時 第一講演 出席者15名)。終了後12名で懇談会がもたれ、その場で設立準備委員会が発足し、出席者全員が設立委員となった。準備委員会の世話役には、内村撒母耳、牧田吉和、黒川雄三の三氏が選ばれた。続いて、鍋谷師から「旧約聖書と現代」と題する第二講演がなされた(出席者26名=男性15、女性11)。

その後、上記の通り、同年7月13日(火)午後3時45分から大韓名古屋教会で9名が出席して中部部会設立総会がもたれたのである(出席者 佐々木保雄、木下信行、G.H. パーテル、平良明人、鈴木健之、牧田吉和、内村撒母耳、黒川雄三、安村仁志。西部部会からも記念講演の講師を含め6名が参加)。そして、内村撒母耳(アッセンブリー・オブ・ゴッド 名古屋教会牧師 当時=以下同)、河野勇一(バプテスト教会連合 緑バプテスト教会牧師)、黒川雄三(長老教会 志賀教会牧師)、後藤喜良(同盟福音基督教会 金山キリスト教会牧師)、鈴木健之(福音自由教会 名古屋教会牧師)、牧田吉和(改革派教会 名古屋教会牧師)、安村仁志(信徒 中京大学助教授)が理事に、理事長には黒川雄三氏が選出された。活動方針が定められ、春に年次総会と講演会、秋に部内の研究発表会を開くほか、随時講演会・研究会を開催することとなった。設立を記念して、鍋谷師から「福音主義神学の奨め」(午後5時～5時50分)、清水汎氏(奈良女子大学教授、西部部会理事)からは「太宰治と聖書」(午後7時～8時)の二講演がなされた。

これを受け、同年10月には中部部会発足の報告と入会案内が地区関係者に送られている。それには丸山忠孝全国理事長の挨拶「神学会は13年にわたる歩みを踏んできました。今般、中部部会が発足し、東部と西部に加え、神学会の活動に地域的な広がりが増し、喜びにたえません……」¹と、中部部会理事(一同)より入会を勧める「本年7月13日に、日本福音主義神学会・中部部会が発足いたしました。これによって、今までは大阪方面か東京方面へ出かけなければ、

¹ 1982年10月付けの案内「日本福音主義神学会中部部会発足の御報告と御入会の御案内」

直接の活動のチャンスを得られなかった、中部地方の教職・信徒が神学研究を励まし合う場を、身近に持つことができるようになりました……」が載せられているが、中部部会設立への潜在的必要性が端的に表わされているといえよう。

同年11月8日(月)午前10時から午後2時15分まで中部部会第1回研究発表会が開かれた。会場は名古屋駅前の中小企業センター7階会議室であった。10時からの開会礼拝(説教 大山忠一名誉会員)に続き、佐々木保雄氏から「労働についての一考察」と題する研究発表(10時半～12時)がなされた。昼食をはさんで、河野勇一氏により「教会成長運動は聖書的か—その神学の序論的考察」と題する第二の研究発表がなされた(12時45分～2時15分)。翌年春の第2回総会(1983年5月16日(月)、中小企業センター、8階4会議室)の時点での会員数は23名であった。その際、「日本福音主義神学会中部部会 第1回研究発表会講演集」と題された、前年度秋の研究発表の内容が掲載されたものが配布された。B5版4ページ(横書き、2列組み)でしっかりしたものであった²。

以上が部会設立前後の動きの一端である。

II. 中部部会の歩み

神の導きにより守られてきた中部部会の活動について、会員数、運営に当たってきた理事会、公開講演会、秋期の研究発表会を見ることで、当部会の特色も浮かび上がってくるものと考え、以下に一覧にして示したい。

年度	会員	理事(理事長、書記、会計、学会誌、無任所の順)	講演会 (敬称略)	研究発表 (敬称略)
1982	不詳	黒川雄三、内村撒母耳、鈴木健之、牧田吉和、河野勇一、後藤喜良、安村仁志	鍋谷克爾「福音主義神学の奨め」清水汎「太宰治と聖書」西部より	佐々木保雄「労働についての一考察」、河野勇一「教会成長運動は聖書的か—その神学の序論的考察」

² 第2号は84年度総会時に配布されたが、以後途絶えてしまった。

1983	23	黒川雄三、内村撒母耳、鈴木健之、牧田吉和、河野勇一、後藤喜良、安村仁志	丸山忠孝「ただキリストのみが聞かれるべきである」、当日夕 同「キリスト者の生き方」東部より	村上久「福音主義における“最後の晩餐”の記述をめぐって—過ぎ越しの食事あったのか、そうではなかったのか」、安村仁志「ギリシャ正教神秘神学の一面」
1984	26	黒川雄三、内村撒母耳、鈴木健之、牧田吉和、安村仁志	津村俊夫「創世記1章-3章の解釈をめぐって—その歴史性とのかかわり」東部より	内村撒母耳「説教論」
1985	35	黒川雄三、内村撒母耳、鈴木健之、牧田吉和、安村仁志	稲垣久和「生命科学とプロテスタンティズムの倫理」、当日夕 同「進化論とキリスト教の世界観」東部より	エミー・ミュラー「《女の頭は男である》ということと女性の奉仕との関係」、明田勝利「信仰告白としての新約聖書における《主》の意味」
1986	38	河野勇一、安村仁志、鈴木健之、黒川雄三、金田幸男	宇田 進「今、聖霊について何が問題となっているのか—争点と聖書的展望」東部より	金田幸男「女性、自由、カルヴァン」、兼松一二「十戒は単なる道徳律か」
1987	36	河野勇一、安村仁志、鈴木健之、黒川雄三、金田幸男	久保田周「異教社会におけるキリスト者の生活—特に仏教との関連において」西部より	鈴木健之「明治期聖公会の岐阜伝道の研究」、西堀則男「韓国人の精神とキリスト教」
1988	42	金田幸男、安村仁志、鈴木健之、黒川雄三、河野勇一、梶日出男	有賀 寿「福音と文化—特に社会的召しの観点から」東部より	小野静雄「学生キリスト教運動における神の国と教会」、入川達夫「福音と文化—日本人に対する宣教論の一考察」

1989	40	金田幸男、安村仁志、鈴木健之、黒川雄三、河野勇一、入川達夫	宇田 進「コンテクスチュアライゼーションの課題—特に具体的な問題との関わりで」東部より	後藤喜良「大嘗祭の諸問題」、櫻井園郎「法と神学」
1990	37	鈴木健之、河野勇一、入川達夫、金田幸男、安村仁志、水上 勲	牧田吉和「現代における聖霊論の問題」西部より	原口貞吉「大嘗祭の問題」、水上勲「解釈学の諸問題」
1991	36	鈴木健之、河野勇一、入川達夫、金田幸男、安村仁志、水上 勲	鍋谷亮爾「現代福音主義神学の動向」西部より	奥御山頼義「同盟高山教会の週報に見る戦時中の礼拝」、安村仁志「ロシア文学における聖書の課題」
1992	37	水上 勲、安村仁志、末松隆太郎、金田幸男、河野勇一、入川達夫	津村俊夫「旧約における聖書解釈と説教の接点」東部より	松浦剛「農耕的聖書解釈の試み」、安田恵嗣「正典としての聖書」、R.ヤングブラッド「最近の旧約学における諸問題」
1993	38	水上 勲、安村仁志、末松隆太郎、金田幸男、河野勇一、松浦 剛	中村 敏「日本における宣教の原点を探る」東部より	杉山 明「レビ記の神学をめぐって」
1994	37	水上 勲、安村仁志、末松隆太郎、松浦剛、黒川雄三、小野静雄	石黒次夫「美濃ミッション事件とその教訓」外部より	後藤喜良「現代における礼拝のあり方について」
1995	37	水上 勲、安村仁志、末松隆太郎、隈上正敏、黒川雄三、小野静雄	内田和彦「聖書が教える《霊の戦い》」東部より	井上二郎「信教の自由が守られるために—教会の課題」

1996	37	水上 勲、安村仁志、松浦 剛、隈上正敏、黒川雄三、西堀則男	渡辺信夫「教会の戦争責任と今後の展望」 東部より	渡辺睦夫「みことばとみ霊の間」
1997	36	水上 勲、安村仁志、松浦 剛、隈上正敏、黒川雄三、西堀則男	橋本昭夫「礼拝の秘儀とダイナミズム」 西部より	パネルディスカッション 杉山明「なぜ詩篇歌を歌うのか」、井上 義「世界の現代讃美歌の流れについて」、野町真理「ワーシップ・プレイズと礼拝」
1998	37	松浦 剛、安村仁志、黒川雄三、佐々木保雄、隈上正敏、杉山 明	加藤常昭「届く言葉を求めて」 外部より	服部滋樹「新約聖書におけるエルサレム」
1999	38	松浦 剛、安村仁志、佐々木保雄、隈上正敏、黒川雄三、杉山 明	鷹取裕成「旧約聖書からの説教」 西部より	西岡義行「プロテスタントにおける教会と宣教の相互関係」
2000	36	松浦 剛、安村仁志、佐々木保雄、隈上正敏、黒川雄三、渡辺睦夫	藤原導夫「ポスト・モダンと説教の行方—聖書と今日の人々を結ぶ説教を求めて」 東部より	神谷聡子「《讃美歌 21》についての一考察」、レスポンス：安西幸男「讃美歌 21 の歌詞の神学的意味」、後藤喜良「讃美歌 21 を教会で使用して」

2001	38	松浦 剛、安村仁志、佐々木保雄、隈上正敏、黒川雄三、渡辺睦夫	岡山英雄「患難期と教会(黙示録の終末論)」 夕 同「黙示録をどう読むのか」 東部より	鈴木英昭「北米の長老教会の歴史と日本キリスト改革派教会」、石川正「コミュニケーション・ツールとしてのインターネットに関する一考察」
2002	42	松浦 剛、安村仁志、佐々木保雄、隈上正敏、黒川雄三、石川 正	牧田吉和「福音主義神学における 21 世紀の課題—終末論をめぐって」(中部部会設立 20 周年記念講演会) 西部より	安村仁志「ロシア正教会の現状—世界の動き、福音宣教を考えるために」 野町真理「『神の痛み』のキリスト中心的理解—キリスト者の生活における苦難の積極的意味を求めて」
2003	40	安村仁志、石川正、佐々木保雄、隈上正敏、黒川雄三、松浦 剛	藤本 満「女性教職者論」 東部より、(東海聖書神学塾と共同開催による神学講演会)ミラード・エリクソン「岐路に立つ福音主義」(1「三つの誤った道」、2「選ぶべき道」)	東 正明「イエスの目的的対応について—牧会カウンセリングへの応用のために」、相馬伸郎「日本改革派教会の創立と日本における福音主義教会形成の課題について」
2004	37	安村仁志、石川正、佐々木保雄、松浦 剛、相馬伸郎、水上 勲	内田和彦「新改訳聖書・改定第三版をめぐって—新約聖書の改定箇所を中心に」 東部より	檀原久由「児童福祉論との関連からみるキリスト者像」、小林茂「ゆがめられた愛情依存—教会共同体と境界性・自己愛・人格障害の諸問題」